けやき

学校だより　　11月号
西東京市立住吉小学校
校長　　三澤　亘潤
令和８年10月30日
０４２－４２３－４１８７
http://www.nishitokyo.ed.jp/e-sumiyoshi/

裏庭は輝いている

校長　　三澤　亘潤

夏休みの終盤に、地蔵通りに面した裏庭の一角を開墾しました。長年、枯れた樹の枝や落ち葉、不要になった土が積みあげられ、雑草に覆われた校地で、雑草を抜き、地中深く広がった根を掘り起こしました。備中鍬（くわ）で耕し、以前はその境界だった枠囲みからこぼれて傾斜になった土を掘って積み直し、畝（うね）にしました。担任と一緒に、とめどなく汗をかき、蚊に刺されつつ、こうして、忘れられた土地が、畑になりました。農家の孫として、遥か遠い記憶が蘇ったような、そんな心境になりました。

ひばり学級のみんなが、そこにジャガイモを植えて育てています。野菜を育てるなかで、生命の不思議とたくましさに触れ、食べ物を自らの手で生み出す喜びを感じてほしいと願い、その活動を見守っています。花壇での栽培にとどまらず、少し規模を拡張し、さまざまな探究につなげるための開墾です。水をあげる、芽かき（間引き）をする、畝の土寄せと追肥をする、よく晴れた日には日差しを喜ぶ、風の強い日には倒れないか心配する…。自然との対話がなす収穫の喜びは、みんなの心に残ることでしょう。

学校には、樹木園という側面があります。学校の敷地内にさまざまな樹木が植えられているのは、樹木から学ぶ機能のためです。住吉小の裏庭は、ちょっとした森のような豊かな緑があり、四季の花が咲きます。一面のハナニラの後には、彼岸花が咲き、斎藤隆介の童話「花さき山」の場面のようでした。それぞれの学年が栽培した野菜や花などは、シーズンを終えましたが、５年生が７月に植えたマリーゴールドは、直植えが功を奏して、大輪の花を咲かせました。100鉢を裏庭から地蔵通り沿いに移して、地域の「住吉 花エリア構想」を具体化しています。

さて、昨年度、現在の６年生が、三菱UFJ銀行と連携した金融経済プログラムを実施し、「お金」について学びました。次期学習指導要領で再編・調整される内容の先駆けとなるこの活動を、熟考して更にじっくり深め、発達段階に応じて、無理なく体験できたらと思います。高度に情報化し、複雑になった世界で、自ら適切に選択できる素地を育てたいです。

新しい産業としての農業の在り方も、将来性のあるテーマかもしれません。いつか結実することを夢見て、つれづれ考えていると、南の角の雑草にこんもり覆われた別の一角が、なんだか輝いて見えるのです。